

# イグノーベル賞の西成さんと 13 年ぶりの再会！

東京大学先端科学技術研究センターで渋滞学を研究している西成さん。2021年、西成さんに送ったイグノーベル賞受賞のお祝いメールをきっかけに13年ぶり再会できた。

---

## 再会のきっかけは新聞記事

13年前に渋滞学に興味があり、西成さんに手紙を出したところ、会うことができたが、その後、西成さんと会う機会はなかった。2021年9月、新聞に「歩きスマホの研究」がイグノーベル賞を受賞したという記事があり、そこに西成さんの名前が載っているのを見て懐かしく思った。

## 久しぶりの再会

イグノーベル賞受賞のお祝いの言葉を伝えたくて、思い切ってメールを送ると、西成さんは当時の事を懐かしく思ってくれ、コミーに来社してもらえることになった。

2022年2月3日、「こんにちは！ ご無沙汰してます」と笑顔で来社し、本社の展示室で『自分と握手ミラー』や開発中の商品『本取り棒』を体験したり、箸ゲームを楽しんでくれた。

西成さんは2021年の東京オリンピックでのスムーズな観戦を計画するため、組織委員を3年間務めていた。しかし、コロナ禍で無観客となり、落ち込んでいたところにイグノーベル賞受賞の連絡があり、その後世界中から取材が来て嬉しかったことなどを話してくれた。



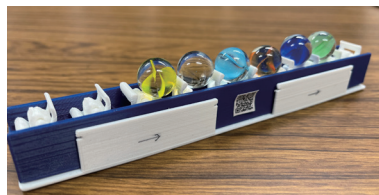
箸ゲームを楽しむ西成さん

## Qi センターで展示品の見学

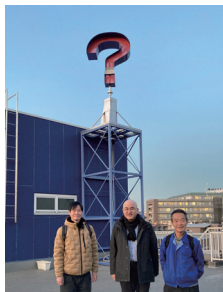
本社を見学した後、Qi センターに移動して2F の展示品を一つ一つ丁寧に見てくれた。鏡の展示コーナーでは「これすごい!」「これ面白い!」と少年のように喜んでくれ、みんなで楽しい時間を過ごした。お互いに面白いと思いついて、非常に有意義だった。

## セルオートマトンのおもちゃを作ってみた

西成さんの『渋滞学』（新潮新書）に掲載されている数理モデル図「セルオートマトン」\*の模型を顧問の河端さんが3D プリンタで作ってくれた。ビー玉をのせて立体的に見えて分かりやすい。よくできているので、西成さんに連絡すると「学生に実演してみせたら喜ぶと思うので、是非いただけると嬉しい」と返事がきたので、さっそく研究室に送った。対面授業が再開したら、東大を訪問して実演後の感想を聞いてみたい。



セルオートマトンの模型



はてな回転看板で記念撮影

\* 空間に格子状に敷き詰められた多数のセルが、近隣のセルと相互作用をしながら、自らの状態を時間的に変化させていく「自動機械（オートマトン）」。

## 西成活裕（にしなりかつひろ）さん

1967年東京都生まれ。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、博士（工学）の学位を取得。その後、山形大、龍谷大、ドイツのケルン大学理論物理学研究所を経て、現在は東京大学先端科学技術研究センター教授。